

科目・コース（ユニット）名： 行動科学 III（こころと病 I）【医学 2】
英語名称： Behavioral Science III (Mind and Disease I)

【担当責任者】三浦 至（神経精神医学講座）

【連絡先】

神経精神医学講座医局：024-547-1331（内 2433）

メールアドレス：neuropsych@fmu.ac.jp

【開講年次】 2 年, 【学期】 前期, 【必修／選択】 必須,

【授業形態】 講義

【概要】 基本的な医療モデルの一つに bio（生物）-psycho（心理）-social（社会）モデルがあり、全ての医師には患者を多面的にとらえることが求められる。「こころと病」では、病に際しての人の心理や行動について、医療者として知っておくべき患者の心理状態や防衛機制、適応などについて学習する。

「こころと病 I」は行動科学の一つとして、人が一般身体疾患に罹患したときの心理・身体反応や行動について具体例を挙げながら概説し、全人的医療を行うための考え方やスキルを習得する。

【学習目標】

1. 人の心理・認知・行動を理解するための基本的な考え方を説明できる。
2. 病に際しての防衛機制、不安、抑うつ、心気、依存などの反応や適応障害を説明できる。
3. 児童（や老年期）に特有のこころの反応を説明できる。
4. がんなど生命を脅かす病に罹患した際の心理反応や適応過程を説明できる。
5. 病を抱えた人に対する基本的なコミュニケーションや姿勢を身につける。

【教科書】 特になし

【参考書】 特になし

【成績評価方法】

出席状況とレポートにより評価する。出席については規定に基づき原則として講義の 2/3 以上の出席を要する。

【学習上の注意事項】

特記事項なし

【垂直的統合授業の実施内容】

1 年次の行動科学 I（基礎心理学）、II（コミュニケーション論）などで学習した内容が、こころと病で臨床的内容として学習する。

【水平的統合授業の実施内容】

さまざまな疾患の特徴や経過・予後などについて、内科系・外科系の講義を統合してこころと病Ⅰの講義を理解する必要がある。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2026/5/15	金	1	(講) 病における行動科学の重要性 (1)	日高 友郎	
2	2026/5/22	金	1	(講) 病における行動科学の重要性 (2)	日高 友郎	
3	2026/5/29	金	1	(講) 病と認知, 行動	青木 俊太郎	
4	2026/6/5	金	1	(講) 病への反応と適応, 支援 (1)	三浦 至	
5	2026/6/12	金	1	(講) がん患者の反応と適応, 支援	三浦 至	
6	2026/6/26	金	1	(講) 病への反応と適応, 支援 (2)	板垣 俊太郎	

【担当教員】

教員氏名	職	所属
三浦 至	教授	神経精神医学講座
板垣 俊太郎	准教授	神経精神医学講座
日高 友郎	講師	衛生学・予防医学講座
青木 俊太郎	助教	医療人育成支援センター

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

精神科の医師として実務経験のある教官が実施する。(三浦至, 板垣俊太郎)